

トピックス

啓蟄とヒキガエル

二十四節気で3月6日は啓蟄、冬眠していた虫が穴から出てくるといわれる季節です。

今年はその直後の3月8日にヒキガエルがほとんど一斉に池に集まってきました。産卵のためです。例年とちよつと蛙の集まり方が違っているようです。冬の寒さが急に緩んだ日に数匹の蛙がぼちぼちと出てきて、再び訪れる寒さに耐えながら啓蟄の頃まで水の中でじっとしているのが例年ですが、暖冬の今年は暖かい日が続いて、寒気が緩むのに気が付かないうちに穴の中で啓蟄を迎えてしまつて、降り出した雨を機会に一斉に穴から出てきたという感じです。

蛙が穴から出てくるキッカケが例年は急激な気温の変化であったのが、今年は雨だったのかということです。

蛙たちは数日の間に二十匹ぐらゐまで増えて、数日の間蛙合戦を繰り広げて、寒天質の長い紐（右上の写真でカエルの腹についている白い紐）の中に奇麗に並んだ卵を産んだ後、三々五々再びいずこへかと去り、池は何事もなかったかのように元のメダカが泳ぐ池に戻りました。5月末ごろに豆ガエル（右下の写真は昨年の豆ガエル）まで成長して、地上へと散っていきます。そして幸運にも厳しい環境を生き抜いて成長した蛙たちが再び啓蟄の頃同じ池に戻ってくるというのが年中行事となっています。

この池に集まる蛙たちが生活できる範囲は、嘗てとは違って越えられないコンクリートに囲まれた狭い範囲で、よくぞこれだけの蛙が住み着いているのかと感心させられます。

因みに、ヒキガエルといえば筑波山の「四六のガマとガマの油」が有名ですね。

鈴木 為 之（山の根在住）



編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉通り、今年は例年より暖かく桜の開花の時期を迎えた。いつもなら、花も咲き始め、春めいた気分が溢れる季節であるのに、今年は新型コロナウイルス新型肺炎の猛威により、全く先の見えない憂鬱な気分が続く毎日である。感染回避のため子供達は学校の休校、大人も時差通勤、テレワークの推奨、不要不急の外出の抑制等日本中が閉塞した雰囲気覆われた異常な状態となっている。今の状況からは早急なウイルスの鎮静化は期待できず、暫くはウイルスの感染、拡散防止のため甘んじて行動を抑制せざるを得ないのであろう。しかしこんな状況だからこそ、思考停止する訳には行かず、工夫をして前向きなことをしたいものだ。人間は意思を持って考え行動するものである。

ウイルス対策のための行動抑制とそれを意識しつつもバランスを取りながら活動すること、例えば地域の神社の境内や公園で仲間とラジオ体操をしたり、ジョギングをしたりとか春の陽気に合わせて何かをしたい今日この頃である。

事務局長 石井 達郎

4/4

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第36号（準備会から通算第57号）
発行日 令和2年4月4日
発行所 逗子市久木2-1-1
久木小学校区住民自治協議会
発行人 田倉 由男

・・・2020年度総会・・・

4月25日（土）14:00～16:00です。

・・・Safety Smart Kind・・・

WHO（世界保健機関）が新型コロナウイルスに対して個人のあるべき行動基準について表明しています。

1. Safety/安全に：毎日の様に云われていますが、ウイルスに対して手洗い、マスクの着用、人込みは避ける等自ら安全なリスク回避を徹底すること。
2. Smart/賢く：ウイルス対応について根拠のある正しい対応を取ること、またデマ等に対して情報を正しく分析理解して対応すること
3. Kind/親切に：不幸にも感染した人やその他の人々に対して寛容で、親切で、思いやりを持った対応をとること。

ウイルスの脅威が冷めやらず、終息の目途がいまだに立たない現在、我々個人も地域も工夫をしながら充実した毎日を過ごしたいものです。

令和2年3月度役員会

令和2年3月7日（土）13:30～15:50 久木神社社務所会議室（新型コロナウイルス新型肺炎対応のため久木会館使用不可のため）17名の（うち役員

14名）が参加して開催されました。主な議題は以下の通りです。

(1)事務局からの報告事項及び依頼事項

①事務局作成の総会資料の説明と確認を行い、16日の役員連絡会までに事務局から送付の総会資料データに各事業部長は加筆訂正してデータを事務局に返送する様依頼した。総会議事

事項のうち役員人事は4月4日（土）の次回役員会で総会資料の確認及び検討討議することを確認した。

(2)審議事項及び確認事項

①新型コロナウイルス新型肺炎対応について
新型コロナウイルス新型肺炎対応について、今住民

協ができる事、特に学校休校で閉塞した子供達に出来る事について議論した。

4/4

◆東子ども部会長より久木小学校の状況報告あり。学童、ふれあいスクールの児童を学校施設で受け入れること（学童 70 名登録のうち 30 名受け入れること）の報告あり。卒業式は 3 月 19 日、就業式は 3 月 21 日との事。

◆学齢期の子供を持つ門脇委員、井上委員より現状の子供対策として他所では「原っぱ大学」は無料開放、「トビウオクラブ」も子供対応の活動をしているとの報告あり。

◆鈴木為委員より屋外での子供達とのハイキングの提案あり。

◆井上委員よりこの自粛期間中に困っている子供達に敢えて手を指し伸べることが住民協の役割ではないかとの提言あり、但し具体的にはイベントの募集等声掛けに個人情報管理が

厳しく連絡網は使えず、現実的な対応は極めて難しいとの報告あり。

◆住民協の対応としては公的には自粛期間であること、実務的に広く参加声掛け等が難しいことから、連絡が比較的容易に行うことが可能な自治会主催でゲリラ的に実施してそれ以外の地域の参加希望者がいれば、ロコミベースでこれを受け付ける方式で対応して、云わばゲリラ的に対応し住民協としての開催は回避する事とした。具体的には山の根 2 丁目の自治会ネットワークで子供達に声掛けをし、それ以外の地域も広く受け付けるやり方で神武寺ハイキングツアーを実施する事を決定した。時期は 3 月 23 日の週を前提に調整する事になった。

②会計より 20 年度予算の件

会計担当より`20 年 2 月までの会計進捗状況、及び 2020 年度の収支予算（案）についての質疑応答が行われた。今回新規に予算計上してい

る運営費の 12 万円は主に事務局の組織化のための補助要員の謝金を予定している事、及び事前に市民協働部に説明済みである事が確認された。

③減災部会

減災部長より次の報告があり了承された。

で実施することとした。

◆前月の役員会でペンディングとなった看護協会の防災説明会は避難所運営委員会と協議し、住民協主催でウイルス騒動が収まった段階

◆減災地図について、最終的にクリアファイルに入れて配布することとし、配布の時期は 4 月を予定することとした。

④ふれあい部会

ふれあい部会長より「2 月 11 日」の雑巾縫いサロンで作成した雑巾を 3 月 28 日(土)の 10:00~

12:00 に久木会館玄関並びに山の根自治会のトーテムポール公園で販売する旨報告があった。

(3)事務局からの連絡事項

①逗子市総合計画審議会委員推薦の件
市より、首題委員の推薦依頼があり、藤江正克

様（山の根在住、早稲田大学名誉教授）を推薦した。

寄稿

・・神武寺と座禅を楽しむ・・

田 倉 由 男（山の根在住）

724 年に開山された天台宗の寺院である神武寺のハイキングの一日。神武寺は、逗子鎌倉でも希少となった山岳信仰の面影を残す寺院として、今日まで法灯を伝えている。

— 3/4 —

この一日は、子どもたちにとって、とても楽しく、記憶に残る時間であった、私達にとっても予想を超える嬉しく充実した時間であった、とおもう。

3 月 26 日、午前 9:30 分に京急神武寺駅に集合。子ども 14 人、大人 12 人の 26 人。

神武寺には四つの参道がある。その一つの裏参道から進む。芽吹き季節、あっちこちに桜の花々、キブシの木。

参道の入り口のすぐ側に池子石の採掘場がある。江戸から明治にかけて盛業だった。池子石は田越川の護岸などに使われた。岩肌には緑色のギザギザしているイワタバコの葉が群生している。

荒々しい山道の脇には、シダと野のすみれの花が、シダは海の風と日陰に合うとのこと。中腹で出会ったせせらぎに、はっとする。枝には台湾リスが戯れていた。

神武寺には三つのやぐらがある。一つは山道の脇にあるこんぴら山やぐら群、一つは境内の墓地の脇にあるみろくやぐら、もう一つの親王やぐらは定かでない。

こんぴら山やぐらは山腹に横に並んでいる。鎌倉末期から室町期に営まれたもの。神武寺関係者の墳墓窟と考えられる。

みろくやぐらには窟中央に凝灰岩石上に安座する弥勒菩薩像がある。



境内の惣門をくぐり右側には、鐘楼堂と楼門と薬師堂（本堂）、左側には客殿（宝珠殿）がある。

薬師堂（本堂）は 1594 年に建立された。山内に現存する最古の建築。医王山神武寺の名の通り、極楽浄土を求める薬師信仰の中心。境内には、樹齢四百年のなんじゃもんじゃが太い枝を伸ばし、桜花と射干の花が咲き誇っていた。境内の右側の坂道を進むと鷹取山に通じる。

イワタバコの葉が群生する両岩壁を通り抜け、今日のラスト・コースである客殿（宝珠殿）に着く。

土屋住職の透き通る声に導かれて客殿に入る。客殿は 1841 年再建されたもので、本尊の阿弥陀三尊像等が祀られている。

土屋住職の教えにより座禅の体験講座が始まる。子どもたちも私たちも、少々、緊張気味。天台宗では座禅のことを「止観」といい、最も大切な修行の一つとなっている。

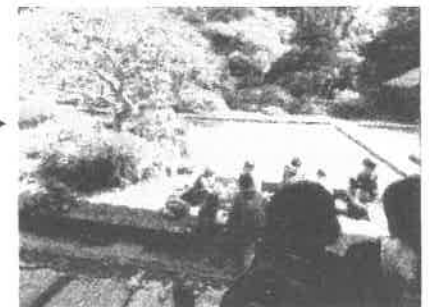
一人一人が座布団を手にし、定位置に座る。両足、両手を組み、半眼で一メートル先を見つめ、姿勢、呼吸、心を整える。

子どもたちは、誰一人、声を出すこともなく、見事な姿勢を整えていた。

座禅（止観）が始まる。静寂の中に、住職の肩をたたく警策の音、ひんやりとした風、鶯の鳴き声、あつという間に 20 分がたつ。素晴らしい体験であった。

庭で昼食

境内の庭で昼食。庭の花々、青い空、暖かい日差し、幸せを感じる。帰りは、表参道を下り、20 分ほどで東逗子に到着。無事、解散する。



ふと、おもう。コロナ騒ぎで学校が休みになっている子どもたちに声掛けし、親も子もリラックスしてもらおうコンセプトの、この神武寺の一日の企画は最高だった、と。

仕掛け人であり、神武寺の道案内人である石井達郎さん（久小校区住民協・事務局長）、山の根自治会の有志の皆様、特に山岳愛好家の田中さん、大野さんのお二人に深く感謝する。

そして、独りごちる。——六月初旬には、赤むらさきの小さな花をつける、イワタバコの群生に、必ず出会いたい、と。

— 3/4 —